下諏訪町の両中学校法務大臣感謝状受彰

下諏訪保護だより

令和７年
第19号

諏訪地区保護司会
下諏訪分区
発行者：髙山登美子
編　集：広報部会

挨拶の大切さを教えられ

下諏訪町交番所長　小山　卓也

下諏訪町交番所長として3年目の任期を迎えます小山と申します。

日頃より、下諏訪町の安心と安全を守るために、保護司の皆さまがご尽力されていることに対し、心から感謝申し上げます。

昨今、全国的な犯罪の情勢を見ますと、「トクリュウ」と呼ばれる匿名・流動型犯罪グループによる特殊詐欺や強盗などの犯罪が多発しています。SNSを通じて若者を巻き込む犯罪グループ「トクリュウ」は、いわゆる闇バイトを通じて犯罪の実行役を募ります。

高額報酬を掲げた甘い誘いに乗ってしまった少年が、気付いた時には犯罪に加担しており、抜け出すことが困難になるケースも少なくありません。

このような背景には、SNS等を通じて、誰とでも気軽に繋がれる社会が訪れた反面、いちばん身近にいる家族との関係が疎遠にり、会話が少なくなっている現状があるのではないかと感じます。

その点、下諏訪町を見ますと、「トクリュウ」に関連するような凶悪事件の発生はありません。その理由は、下諏訪町が「挨拶を大切にする町」だからだと思います。

実際に、私が交番所長として赴任したばかりの頃、制服で通学路警戒をしていると、小学校低学年の女の子が「おはようございます。」とあいさつをしてくれました。私は心が洗われるような気持になるとともに、「こんな小さな子がしっかりと挨拶ができるということは、日頃から挨拶の大切さを教えられているのだろう。」と感心しました。

このように町民の方が会話の基本である挨拶を大切にし、人との繋がりを保っている下諏訪町だからこそ、全国で発生しているような凶悪事件の防止につながっているのだと思います。私たち警察も、町民の方との繋がりを大切にしながら、毎日の挨拶が当たり前にできる、安心・安全な下諏訪町を守り抜けるよう、保護司の皆さまと連携を深めながら、精いっぱい仕事をしてまいる所存です。

今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

活動の源は 思いやりの心から

下諏訪地区更生保護女性会 会長　吉田　美枝子

令和6年度は、県の更生保護女性会より「子育て支援地域活動」の指定を受けましたので、全員一丸となって考え、検討し、行動し、忙しい年でしたが、終えた後は、いい経験を味わいよかったと思いました。

「ぬくぬくサークル」、「子育て支援の講演会」、「『うさぎドロップ』の上映会」、ほごちゃんぬり絵の展示会と保育園への絵本の贈呈ができました。次につながる事業を考え行うことが意義あることでしたから、図書館でのぬり絵の展示は大きな成果だったと協力してくださった園児の皆様、先生方に感謝いたします。

あすなろ学級とのぬくぬくサークル七夕まつり

更生保護女性会は、私たちの綱領の中に「私たちは一人ひとりが人として尊重され、社会の一員として連帯し、心豊かに生きられる明るい社会をめざします。」とあります。みんなで心ひとつにして、町の安心・安全のために見守りパトロールをはじめ、社会を明るくする運動への広報活動、犯罪防止の啓発活動などを行っているボランティア団体です。社会に役立つよう、これからも努力してまいります。

会員の元気の源は、やさしい思いやりの心から、そしてすべてに感謝の心から、です。町の人々の安穏の生活を願って、これからも無理なく元気に、仲良く団結して活動してまいります。関係団体の皆様のご指導、ご協力のほど、よろしくお願いします。

第25回 長野県更生保護女性の集い

第25回長野県更生保護女性の集いが長野市のホテル国際21で開催されました。次の方が表彰されました。

◎長野県保護観察所長感謝状

小口　みさ子
増澤　洋子
一ノ瀬　禮子
北村　喜代子

◎長野県更生保護女性連盟会長表彰

一ノ瀬　禮子
北村　喜代子
牛山　敏子
髙木　敦子

◎関東更生保護女性連盟会長表彰

吉田　美枝子

人事報告

◎新任保護司

岩波　美佐穂

よろしくお願い致します。

あとがき

人はみな、生かされて生きてゆく

今回、ご多忙の中ご寄稿いただいた下諏訪町交番所長小山様、合同研修会講師の松森様、下諏訪社中若林先生、ここに篤く御礼申し上げます。

急速な科学技術の進歩によって次々と惹起する社会問題に直面されている小山所長様が実感された「人間関係の極度の希薄さ」は、かつてない現象であり、私達もその思いを等しくするところです。

松森様は、合同研修会では今こそ必要な人間の在り方を見事に伝える数編の映像を通じて列席者に感動を与えて下さり、今回の寄稿では亡き坂本龍一氏が嗚咽を感じる程の詩を通じ、無報酬で活動する者に使命感に生きる事の大切さを教えて下さりました。

若林先生はじめとする下諏訪町の両中学校のみなさまには、長年にわたる活動の積み重ねの大切さに改めて気づかせていただきました。ありがとうございました。

（広報部　堀内 伸二）

法務大臣感謝状をいただいて
～社会を明るくする標語づくり～

下諏訪社中学校 校長　若林　和仁

日頃より、学校教育活動へのご支援をいただきありがとうございます。昨年10月に下諏訪中、社中が松本市で行われた関東地方更生保護大会にて法務大臣より感謝状をいただきました。

表彰された活動は、中学生が標語を作り、入選作を保護司の皆様が大きな看板にして、学校の入り口や公民館、バス停など町内各所に掲示していただいている活動です。実に50年近く続く、他の市町村にはない下諏訪町独自の活動ということです。「明るい未来をつくるために始めよう！　良い人たくさん下諏訪町」「君の言葉で花ひらく　僕らのまちの思いやりの花」など、どの作品にも明るい町にしたいという願いが込められています。

今回、両校が感謝状をいただきましたが、長年にわたる関係者の皆様、先輩方の取り組みの積み重ねがこの感謝状につながっています。私たちこそ感謝しなくてはいけません。地域のために貢献できることを、こつこつと積み重ねていく、そんな活動をこれからも大切にしたいと思っています。

「社会を明るくする運動」標語募集の足跡

令和6年10月25日、下諏訪中学校・下諏訪社中学校は第69回長野県更生保護大会「社会を明るくする運動」に長年貢献したとして、法務大臣感謝状を受けました。また、保護司会としても両中学校には毎年大変お世話になっており、感謝申し上げます。

標語募集の経緯については、今まで詳しい資料がなく、この機会に経緯を調べてみました。

47年前、昭和53年6月23日付の湖国新聞に、昭和53年以前は一般の方々を対象に標語を募集していましたが、その年から青少年の声を聞きたいということで、中学生から標語を募集し、20名の方々を表彰していたことが記事として載っていました。

また、お二人の先輩の保護司にお聞きしましたところ、町内20か所に標語の看板設置は、昭和59年（41年前）に、習字の先生をされていた故中村喜峰様が保護司になったのを機会に始まったそうです。平成10年で中村様が退任されてからは、パソコンとプリンタで看板を作製し町内各地に設置をして今日に至っております。

関係者の皆様、長い間大変お世話になり、誠にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

（小口　久輝）

第69回　長野県更生保護大会報告

長野県更生保護大会が令和6年10月25日（金）松本市のキッセイ文化ホールで開催されました。下諏訪分区での受賞者は以下の通りです。おめでとうございます。

◎全国保護司連盟理事長表彰　増澤　洋

◎長野県保護司会連合会長表彰　直井　賢治

第75回　社会を明るくする運動

～犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域の力～

「社会を明るくする運動」のシンボルマーク

強調月間　7月1日（火）～7月31日（木）

標　語　下諏訪両中学校より20点の入選標語を立看板にし、町内20箇所に設置し、学校訪問の際、表彰します

街頭啓発　7月1日（火）
駅前と各小・中学校入り口で趣旨を呼びかけます

学校訪問　小・中・養護　6校を訪問し、更生保護女性会より「愛の花束」を贈呈します

公開ケース研究会　9月25日（木）18時～
下諏訪町役場4階講堂
テーマ「薬物依存からの更生」（仮題）

“社会を明るくする運動”作文コンテスト

下諏訪町の小・中学校の皆さんから毎年作文を募集し入選した作品を表彰します。

第74回「社明運動」公開ケース研究会

犯罪予防部　直井　賢治

第74回社会を明るくする運動下諏訪町推進委員会は、公開ケース研究会を9月18日に、保護司や更生保護女性会、町理事者、教育関係者の方々約40名の参加をいただき、下諏訪町役場4階講堂にて行いました。

今回はまず初めに、過去に犯罪を犯した人を雇入れ、立ち直りを支えている「雇用主」と、その職場の人々を取材して、立ち直りの為に必要な事は何かを示すドキュメンタリーDVD『僕の居場所』を全員で視聴しました。その後、2グループに分かれDVDを観て想う事、現在地域で気になっている事の意見交換を行いました。DVDについては『居場所が有れば何があっても帰って来られる』『家族の繋がり、地域の繋がり、職場の繋がり、繋がりは大切』『居場所とは相手が信頼して、此方も信頼しないと成立しない』等々、多くの意見が活発に交換されました。もう一つの地域については『児童、生徒、学生を町全体で多くの方々が見守る体制が望ましいのではないか』『街路灯が無く不用心な場所がある』『園児を温かく見守っていただき有難い』等が上がりました。

今回の公開ケース研究会の貴重な意見を、参加された皆さん（自分も含めて）今後の活動、行動に活かしていただければと思っております。

本年の公開ケース研究会を、9月25日に一般社団法人長野ダルク様に講師をお願いして、薬物関係の講演を計画しております。お問い合わせは、下諏訪町役場住民環境課生活相談係迄よろしくお願い致します。

岡谷地区・下諏訪分区保護司会合同研修会

今回、研修会講師を務めていただいた松森清昭様のお話しをもっと聞きたいとの声があり、特別にご寄稿いただきました。

坂本龍一とハチドリの物語

松森　清昭（松本市・童画家）

諏訪の小学校で撮影された是枝裕和監督の「怪物」、そしてそのエンドロールに流れる美しい坂本龍一のピアノ曲、彼の最後の映画音楽となりました。多くの困難や生きづらさを抱えた不信やあきらめの時代、彼の音楽や生き方はいつも前に進む希望と勇気をくれました。

音楽家のみならず、環境保護活動や被災地支援など、彼の言葉では、「大きな問題に対しては無力感、悲観論に被われてしまうが、行動だけはポジティブに、身の丈にあったことを、自分にできることをやろうと考えてきた。」という内容を語っていました。つらい闘病中にも、神宮の樹木伐採を止めてほしいと都知事に手紙を送っています。

そんな坂本さんが「美しすぎる」「嗚咽で声が詰まって話ができない」と言って、いつも大切にしていた一編の童話があります。それは南アメリカ先住民に伝わるお話です。

「ハチドリのひとしずく」

森が燃えていました／森の生きものたちは／われ先にと逃げていきました／でもクリキンディという名の／ハチドリだけは／いったりきたり／くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます／動物たちがそれを見て／「そんなことをして、いったい何になるんだ」／といって笑います／クリキンディは　こう答えました／「私は私にできることをしているだけ」（「ハチドリのひとしずく」辻信一監修・光文社

坂本龍一さんのご冥福をお祈りします。

三重刑務所視察研修

研修部　増澤　洋

令和6年10月10日、保護司7名、更生保護女性会9名、現地合流で下諏訪町議会議員5名の計21名で三重刑務所の視察研修を実施しました。三重刑務所は、収容分類級は幅広い年齢の初犯者、犯罪傾向が進んでいない男子刑務所で、木工、印刷、洋裁、金属加工等の各種提供作業を実施する専門工場を有しています。収容されている高齢者を介助しながら作業する若者の姿があり、刑務所内の高齢化を実感しました。

また、敷地内には大正5年に建築された「安濃津監獄」のレンガ組の重厚な監獄表門が歴史的資料として敷地内に保存されていました。